

生誕
120周年

岩美町が生んだ 1888年生まれの人

岩美町の財産 - それは海・山・温泉...といろいろありますが、何にも勝る財産と言え、『人』であることを忘れてはなりません。

岩美町出身の偉人の中で、この三人は偶然にも1888年生まれで、今年生誕120周年を迎えます。この三人が残した業績は素晴らしいものであり、同じ岩美町民として誇れることです。

今回は、岩美町の素晴らしい財産である『1888年生まれの人』をご紹介します。

衆議院初代議長

まつ おか こま きち
松岡 駒吉



1888年～1958年

明治21年（1888年）岩井に生まれる。幼い頃から向学心に燃えていたが、貧しさのため進学を断念し、明治36年（1903年）造船技師を目指して兄のいた舞鶴に赴いた。

明治45年（1912年）働いていた室蘭の製鉄所で労働者の代表として会社側と交渉し、成果を収めた。このことが労働運動に関わるきっかけとなり、友愛会（労働者の団体、後の総同盟）に入会することになった。

昭和21年（1946年）には、再生された総同盟の会長に再選され、新憲法の下で実施された衆議院議員選挙に東京2区から立候補して当選し、昭和22年、新生日本の立法院衆議院の初代議長に選出される。議長在任中は、恒久平和と国民主権を謳う新憲法の崇高な理念を自覚し、インフレの克服など山積する困難な課題に正面から立ち向かった姿勢は高く評価され、名議長と言われている。

～ふるさと人物誌より～

国際連合初代日本大使

さわ だ れん ぞう
澤田 廉三



1888年～1970年

明治21年（1888年）浦富に生まれる。大正5年（1916年）駐仏大使館書記官を振り出しに、ニューヨーク総領事や駐ビルマ・駐仏大使などを務める。戦後、東西冷戦の最中に国際連合において、日本の国際連合加盟に尽力し、加盟を実現させ初代日本大使となる。

ふるさと「浦富海岸」は、世界に誇れる景勝地であると賛美し、深く郷土を愛し、寸暇を惜しんで帰省した。

また、日露戦争で漂着したロシア将兵の遺体を手厚く葬った田後の漁民の心を「人類愛」、大老井伊直弼を悟し、日本の開国を決断させた彦根清涼寺・仙英禅師（浦富生れ）の心を「祖国愛」、曹洞宗通幻派の始祖・通幻禅師（浦富生れ）を墓中で出産した母の愛を「母子愛」とし、これら「三愛」として提唱し、町内に三愛の碑を建立した。

～ふるさと人物誌より～

多才な民俗学者

はし うら やす お
橋浦 泰雄



1888年～1979年

明治21年（1888年）岩本に生まれる。大正元年（1912年）文学者を目指して上京する。有島武郎、生田春月らとも親交を深め、当時の既成文壇に挑戦した同人雑誌の発行などに加わった。

また、日本社会主義運動にも参加し検挙もされたが、弾圧に屈することなく活動に身を投じ、日本社会主義運動史にその名を留めた。

昭和10年（1935年）には、柳田国男と協力して「民間伝承の会（後の日本民俗学会）」を設立し、日本各地の民俗調査を行い、記録を残すとともに、昭和18年から「民俗伝承」誌の発行に献身的な努力を続け、戦後の民俗学の基礎を築いた。

昭和30年（1955年）には、民俗学関係の代表として「広辞苑」の編さんに参加する。また、画家でもあったことから日本美術会の結成にも関わり、その多彩な才能を発揮した。